

イヴ・オノンヌ・レイナーを巡る

パフォーマティブ・エクシビジョン

京都造形芸術大学

＜舞台芸術作品の創造・

受容のための領域横断的・

実践的研究拠点＞

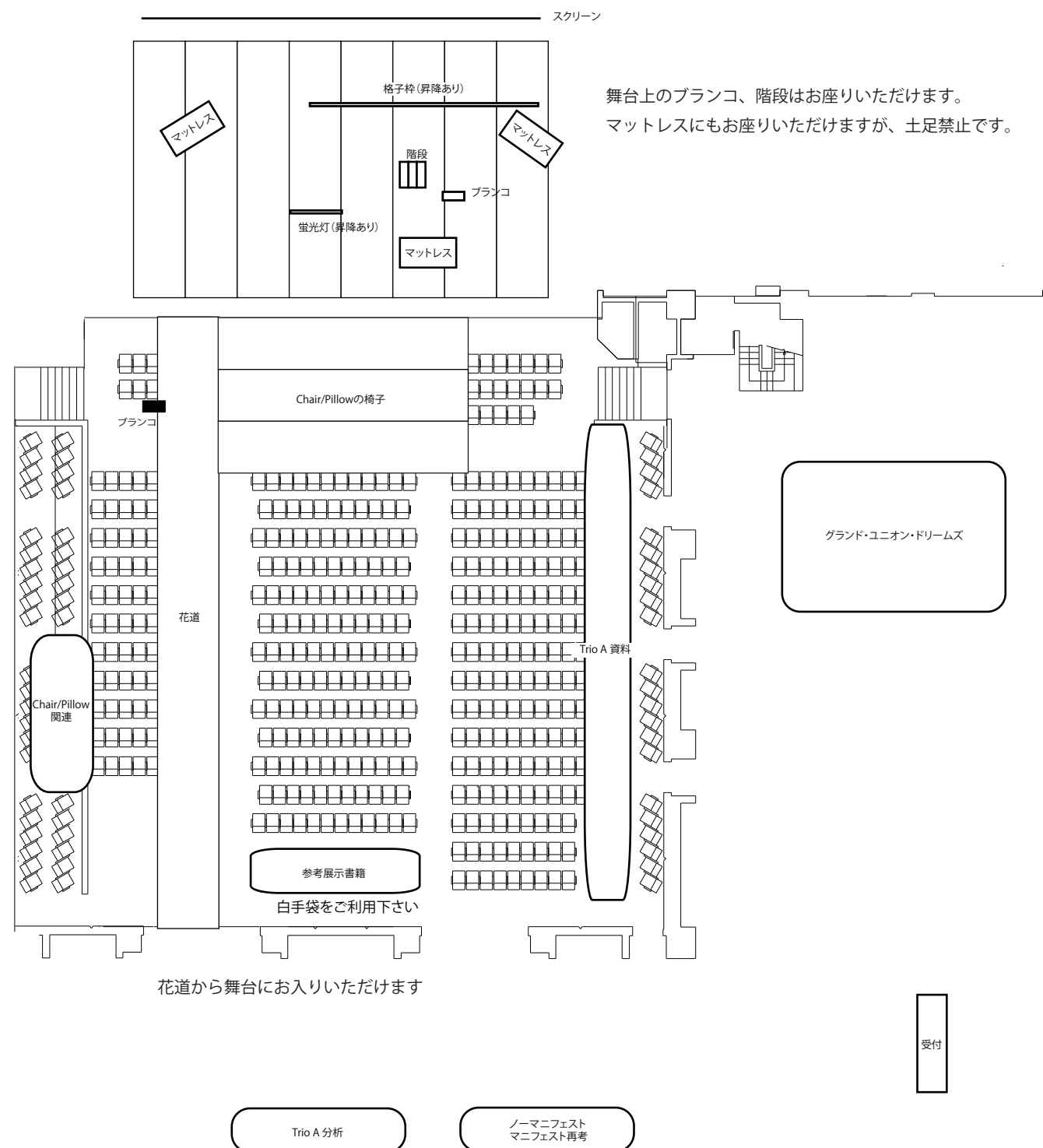
2017 年度 共同研究プロジェクト

「老いを巡るダンスドラマトゥルギー」

2017 年 10 月 11 日（水）－ 15 日（日）

12:00 － 18:00

Performance



*ロビー・劇場内の飲食・撮影はご遠慮下さい。
*場内は段差がございますのでお気をつけ下さい。

3. レクチャー

2017 年 10 月 15 日（日）15:00-18:00

イヴォンヌ・レイナーは 1966 年に、『The Mind is a Muscle』というパフォーマンスの中で初めて『Trio A』を発表しました。この作品の「レクチャー」という最後の部分では、『Trio A』の振付をレイナーがタップシューズを履いて踊り、その間に天井から舞台途中までグリッド枠が降りてくるというものでした。ここでは、この『Trio A』の「レクチャー」を踏まえて、春秋座での本パフォーマンス・エキシビジョンの最終セクションとして、老いをテーマに私たちの時代の、ダンスの「レクチャー」とは何か、問いかけます。

| 登壇者 |

越智雄磨（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）

『Trio A』の経年変化―ダンスの終焉、あるいは終焉しなかったダンスについて

外山紀久子（美学・舞踊学、埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授）

《トリオ A》、アタラクシアの妙薬

三輪健仁（東京国立近代美術館主任研究員）

「展示的（exhibitionlike）」：1960 年代の美術／ダンス

中島那奈子（ダンス研究・ダンスドラマトゥルク）

イヴォンヌ・レイナーを巡るパフォーマンス・エキシビジョンについて

主催 | 京都造形芸術大学＜舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点＞2017 年度 共同研究プロジェクト「老いを巡るダンスドラマトゥルク」研究代表者 中島那奈子

協力 | KYOTO EXPERIMENT、京都造形芸術大学＜舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点＞2017 年度研究プロジェクト『「ダンス 2.0」の環境構築を通して今日的教育という課題へとダンスをつなぐ試み」研究代表者：木村覚（"Trio A" ショーイング）
資料提供 | Getty Research Institute, Los Angeles、Post Studium / urizen

舞台監督 | 夏目雅也、照明プラン | 岩村原太、照明オペレーション | 川島玲子、音響 | 奥村朋代、映像 | 川崎麻耶、通訳 | 青島絢、宮北裕美
制作 | 川崎陽子、当日制作 | 中山佐代

同時開催

『特権』

1990 年 | 103 分 | 米国 | 日本語字幕付

監督 || イヴォンヌ・レイナー

中年女性の更年期をテーマに性的アイデンティティ、人種、階級の不平等について迫るイヴォンヌ・レイナー監督作品を春秋座でのエキシビジョンと同時上映します。

日時 | 2017 年 10 月 12 日（木）18:30-（18:00 開場）

*上映終了後、本研究会主催・中島那奈子とやなぎみわ（アーティスト）氏を迎えてのトークを行います。

会場 | 同志社大学寒梅館ハーディーホール（京都市上京区御所八幡町 103 同志社大学寒梅館）

料金 | 1,000 円（予約不要）

『特権』上映に関するお問合せ詳細 | http://d-live.info/program/movie/index.php?c=program_view&pk=1505796954

主催 | 同志社大学今出川校地学生支援課 作品提供 | 山形国際ドキュメンタリー映画祭

ポストモダンダンスの歴史を作り、コンテンポラリーダンス界においても大きな影響力を持つニューヨーク・ジャドソン教会派を代表する振付家・ダンサー、イヴォンヌ・レイナー。2006 年からは、ダンスにおける「老い」を実験的テーマとするダンス作品を創り続けています。2016 年度から継続する研究プロジェクト「老いを巡るダンスドラマトゥルク」では、イヴォンヌ・レイナー作品を中心とした資料、映像、当時の舞台、再構成されたパフォーマンス／ワークショップ、レクチャーからなるパフォーマンス・エキシビジョンを春秋座の空間で開催します。これは、春秋座を美術館として用いる、ダンスの継続展示上演という試みです。

展示では、近年公開されたアメリカ・ゲッティー美術館のイヴォンヌ・レイナー・コレクションから取り寄せた『Trio A』と『Chair/Pillow』の資料から、当時この振付が上演された様子を振り返りながら、二つの初期作品のショーイングの際に視覚的なガイドとなるダンス・アーカイヴのあり方を模索します。また、ダンスを理論化した数少ない振付家であるイヴォンヌ・レイナーのダンスに関する言説（ダンスとミニマリズム彫刻との対応表や、「ノーマニフェスト」およびそれを近年になって見直した「マニフェスト再考」）、そして『Trio A』がその一部であったパフォーマンス『心は筋肉である』の舞台装置を一部再現しながら、レイナーが目指したダンスとはどのようなものだったのかを考えていきます。またそれに加えて、日本でのポストモダンダンス再構成の前例となる『グランド・ユニオン・ドリームズ』再演の記録資料を展示しながら、今回初めてとなる『Trio A』『Chair/Pillow』のショーイングが、日本の舞台芸術界にどのような影響や意味を持ち得るのかを探求します。ポストモダンダンスを辿るアーカイヴは、日本の伝統演劇の歴史が生きる祝祭空間、春秋座によって、老いというキーワードとともに、どのように息を吹き返すのでしょうか。このパフォーマンス・エキシビジョンが、日本におけるポストモダンダンスを再考するよい機会となれば幸いです。

中島那奈子

イヴォンヌ・レイナー

1934 年サンフランシスコ（アメリカ）生まれ。ダンサー、振付家、映画監督。1962 年のジャドソン・ダンス・シアター創立メンバーのひとりで、従来のモダン・ダンスに対し、ポスト・モダン・ダンスと呼ばれる新たなダンスの概念を形成した。

1966 年には代表作『トリオ A』を発表。1970 年代から映画制作を始め、『パフォーマーの生活（Lives of Performers）』『特権（Privilege）』『ベルリンからの旅（Journeys from Berlin）』などを製作。2000 年代から振付家の活動を再開。著書に『作品 1961-1973（Work 1961-1973）』『フィーリングス・アー・ファクツ（Feelings Are Facts）』『詩（Poems）』など。

中島那奈子

ダンス研究者、ダンスドラマトゥルク、日本舞踊宗家藤間流師範。ドラマトゥルクとして国内外の実験的舞台作品に関わり、近作にセバスティアン・マティアス “x/groove space”（フェスティバルトーキョー 16）。「老いと踊り」の研究を進めつつ「ダンスアーカイブボックス @TPAM2016」や「ダンスのマルチプルな未来」第 9 回恵比寿映像祭 2017 のキュレーションも手がける。著書に The Aging Body in Dance: A cross-cultural perspective (The Routledge, 2017)、「踊る身体と踊りを見る身体が多様化」『Who dance ? 振付のアクチュアリティ』、「老いを巡るダンスドラマトゥルク：ライムント・ホーゲの An Evening with Judy を中心に」『舞台芸術』19 など。2017 年アメリカ・ドラマトゥルク協会エリオットヘイズ賞特別賞。

www.nanakonakajima.com

2. 映像上映

2017 年 10 月 13 日（金）14:00 開始

※映像上映中は、展示内に一部お入りになれないところがございます。ご了承ください。

14:00-15:20…①・②

—休憩 40 分—

16:00-17:35…③・④

①『After Many a Summer Dies the Swan: Hybrid』

2002 年 | 31 分 | 米国

振付 || イヴォンヌ・レイナー

ミハイル・バリシニコフの「ホワイต์・オーク・ダンス・プロジェクト」に振り付けたレイナーのダンス作品と、オスカー・ココシュカ、アドルフ・ロース、アーノルド・シェーンベルク、ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインによるテキストを組み合わせ構成した映像作品。

②『Five Easy Pieces』

1969 年 | 48 分 | 米国 | 白黒サイレント

監督 || イヴォンヌ・レイナー

“Hand Movie” 1966 年 | 5 分

“Volleyball” (Foot Film) 1967 年 | 10 分

“Rhode Island Red” 1968 年 | 10 分

“Trio Film” 1968 年 | 13 分

“Line” 1969 年 | 10 分

1966 年から 1969 年にかけて撮影されたレイナーの 5 つの初期短編映画。『The Mind is a Muscle』内でも上映されたもの。

③『フィーリングス・アー・ファクツ ～イヴォンヌ・レイナーの生涯～』

2015 年 | 86 分 | 米国 | 日本語字幕付

監督 || ジャック・ウォルシュ

字幕制作 || アテネ・フランセ文化センター

出演 || イヴォンヌ・レイナー、スティーヴ・パクストン、シモーネ・フォルティ、ルシンダ・チャイルズ、キャロリー・シュニーマンほか

2017 年 3 月に本研究会で日本初公開を迎えた、イヴォンヌ・レイナーのドキュメンタリー映画。

④『Trio A (老いぼれバージョン)』 パット・カターソンのアシストによるイヴォンヌ・レイナーのパフォーマンス

2017 年 | 7 分 | HD VIDEO

監督 || デヴィッド・マイカレック

展示資料

ゲッティー美術館所蔵イヴォンヌ・レイナー・コレクションのうち『Trio A』、『Chair/Pillow』を巡る記録写真、スコア、公演ポスター、レイナーによる振付メモ『グランド・ユニオン・ドリームズ』（1971 年初演）2010 年再演記録資料ポストモダンダンス関連の書籍『The Mind is a Muscle』の舞台再構成 など

展示期間中プログラム

1. イヴォンヌ・レイナー『Trio A』『Chair/Pillow』ショーイング

2017 年 10 月 12 日（木）・14 日（土）16:30-17:00

2. 映像上映

2017 年 10 月 13 日（金）14:00 開始

3. レクチャー

2017 年 10 月 15 日（日）15:00-18:00

10/11
(Wed)

展示
12:00～18:00

10/12
(Thu)

展示
12:00～18:00

ショーイング
16:30～17:00
イヴォンヌ・レイナー振付作品
『Trio A』『Chair/Pillow』

10/13
(Fri)

展示
12:00～18:00

※13 日の映像上映中は、
展示内に一部お入りになれないところがございます。
ご了承ください。

映像上映
14:00-15:20
『After Many a Summer Dies the Swan: Hybrid』
『Five Easy Pieces』

映像上映
16:00-17:35
『フィーリングス・アー・ファクツ
～イヴォンヌ・レイナーの生涯～』
『Yvonne Rainer Trio A (老いぼれバージョン)』

10/14
(Sat)

展示
12:00～18:00

ショーイング
16:30～17:00
イヴォンヌ・レイナー振付作品
『Trio A』『Chair/Pillow』

10/15
(Sun)

展示
12:00～18:00

レクチャー
15:00～18:00
登壇者：
越智雄磨
（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）
外山紀久子
（美学・舞踊学、埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授）
三輪健仁
（東京国立近代美術館主任研究員）
中島那奈子
（ダンス研究・ダンスドラマトゥルク）

1. イヴォンヌ・レイナー『Trio A』『Chair/Pillow』ショーイング

2017年10月12日（木）・14日（土）16:30-17:00

レイナーによる1960年代の代表作『Trio A』（1966年初演）及び『Chair/Pillow』（1969年初演）を、2010年よりイヴォンヌ・レイナーと共に活動するEmmanuèle Phuon氏をコーチングに迎え、関西のダンサーとのワークショップを経てショーイング上演します。10月11日（水）には、ワークショップも展示空間にて開催します。

『Trio A』ショーイング出演者（五十音順）

桂勘、神村恵、高林白牛口二、寺田みさこ、西岡樹里、ボヴェ太郎

『Chair/Pillow』ショーイング出演者（五十音順）

大谷悠、小野彩加、川瀬亜衣、きたまり、杉本昂直、砂原うり、竹之内美美、出村弘美、寺岡千尋、西村寛子、振子びじん、畑中良太、益田さち、松本奈々子

Emmanuele Phuon プロフィール

ベルギー、ブリュッセルを拠点に活動する、フランス人の母とカンボジア人の父を持つダンス・アーティスト。ロイヤル・バレエ・カンボジアでダンスを始め、フランス、アヴィニヨンのコンセルヴァトワール卒業。アメリカ、ニューヨークではElisa Monte Dance Company（1989-1994）、ミハイル・バリシニコフ「ホワイテ・オーク・ダンス・プロジェクト」（1995-2001）に参加したほか、マーサ・クラーク、ヨアヒム・シュレーマー、メグ・スチュアートなどの作品に出演。2010年よりイヴォンヌ・レイナーのインフォーマル・カンパニーに参加。2009年及び2015年にアジア・カルチュラル・カウンシルのグラントを受け、カンボジア、プノンペンのアムリタ・パフォーミング・アーツと共に振付作品を創作。Phuonの作品はバリシニコフ・アート・センター、New Haven’s Festival of Arts and Ideas、Spoleto Dance Festival in Charleston、the Guggenheim Works and Process、シンガポールのDa:ns festivalなどに招聘されているほか、香港、アムステルダム、ニューデリーでも上演されている。
<https://emmanuelephuon.com>

『Trio A』ショーイング出演者（五十音順）

桂勘（舞踏家・振付家・office PARADIX K. 芸術監督）

京都生まれ。1979年「白虎社」設立に参画、81年よりソロ活動。1986年マルチナショナル舞踏グループ「桂勘&サルタンバンク」結成。1991年からの「美のフィールドワーク〜国際ワークショップフェスティバル」（京都芸術短期大学（当時）精華大学との共催）を皮切りにダンスの創作プロセスを共有する国際共同制作を続ける。現在はサミュエル・ベケットの舞踏作品を手がける。

神村恵（振付家・ダンサー）

2004年よりソロ作品を制作し始め、国内外の様々な場所にて公演を行う。2006年9月神村恵カンパニーとしても活動を開始。2012年9月東京国立近代美術館にて『沈黙図』上演。2016年より美術家・津田道子とのユニット『乳歯』を始動。2017年2月、STスポットにて『知らせ＃2』上演。物質としての体、感覚する主体としての体、何かを指し示す体、が交差する場としてダンスを立ち上げる方法論を探っている。

高林白牛口二（喜多流能楽師）

1935年京都市生まれ。幼少より父高林吟二のみに稽古を受ける。1971年喜多流職分となる。1982年4月より、400年の伝統がある京都の喜多流の開示公演「喜多流・涌泉能」を続け、能楽の普及や伝統維持、後継者育成に尽力。初舞台1938年『飛鳥川』子方、1998年『卒都婆小町』、2009年『鸚鵡小町』、2012年『伯母捨』、上記の老女物を3番勤める。2016年『江口』を最後に「シテ」を舞う事より引退。

寺田みさこ（ダンサー・振付家）

幼少よりバレエを学ぶ。1991年より砂連尾理とユニットを結成。「トヨタコレオグラフィーアワード2002」にて、次代を担う振付家賞、オーディエンス賞をダブル受賞。自身の作品を発表する傍ら、石井潤、山田せつ子、白井剛、笠井観など様々な振付家の作品に出演。アカデミックな技法をオリジナリティへと昇華させた解像度の高い踊りに定評がある。

西岡樹里（ダンサー）

兵庫県出身、在住。幼少よりダンスを習い始める。神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻、卒業。文化庁・NPO法人DANCE BOX主催 国内ダンス留学@神戸 一期生。砂連尾理、チョン・ヨンドウ、余越保子など国内外で発表される様々な振付家の作品に出演。同時に自身の振付作品を製作し発表する。

ボヴェ太郎（舞踊家・振付家）

1981年生まれ。空間の〈ゆらぎ〉を知覚し、感応してゆく「聴く」身体をコンセプトに、歴史的建造物や庭園、美術館等、様々な空間で創作を行っている。主な作品に『不在の痕跡』、『余白の辺縁』、『百代の過客』等がある。能の古典曲『杜若』、『井筒』、『葵上』、『江口』、『野宮』、『楊貴妃』を題材とした能楽との共演作品を上演するなど、〈ことば〉や〈音〉によって立ちあがる空間に着目した作品も多く手がけている。

資料 番号	分類名	資料名	メディアとサイズ	クレジット
1	公演ポスター	イヴォンヌ・レイナー・ソロコンサート、コン ウェルズ・インスティテュート、ロンドン、 1965年9月	Colored media on paper, gelatin silver print, 76 × 50.6 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
2	写真	ルイズ・ギルケのスタジオにて、イヴォンヌ・ レイナー、1957年	Sheet: 25.3 x 20.2 cm, Image: 24.1 x 19 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
3	写真	『Satie for Two』イヴォンヌ・レイナーとトリ シャ・ブラウン、スタジオ写真、1962年	Gelatin silver print, 25.3cm × 20.3cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
4	公演ポスター	ダンスのコンサート、ジャドソン記念教会、 1962年、ポスターデザインはスティーヴ・パ クストン	Offset, 27.8cm × 21.6cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
5	公演ポスター	ジャドソン教会派、ダンスのコンサート、第 14、15、16回、1964年、ポスターデザイ ンはロバート・モリス	Offset, 25.8cm × 42cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
6	ポストカード	『Trio A』イヴォンヌ・レイナー、スティーヴ・ パクストン、デヴィッド・ゴードン	Photographic postcard, Sheet 10.8cm × 14 cm, Image 8.5 × 12.7 cm	Peter Moore, Photograph of Yvonne Rainer's Trio A, Year of Photo. © Barbara Moore/Licensed by VAGA, New York, NY. Courtesy Paula Cooper Gallery, New York, NY.
7	舞踊譜	『Trio A』イヴォンヌ・レイナーの舞踊譜 一枚 目	Ink on paper, 27.7 × 21.3 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
8	舞踊譜	『Trio A』イヴォンヌ・レイナーの舞踊譜 二枚 目	Ink on paper, 27.7 × 21.3 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
9	舞踊譜	『Trio B』ランニング、舞踊譜	Pencil on paper, 21.1 × 18.5 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
10	舞踊譜	『Trio B』第2部	Pencil on paper, 24.2 × 21 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
11	舞台写真	『心は筋肉である』より「マット」、1968年	Sheet: 25.2 x 20.5 cm Image: 24.1 x 18.7 cm	Peter Moore, Photograph of Yvonne Rainer's "Mat" from the Mind is a Muscle, 1968. © Barbara Moore/Licensed by VAGA, New York, NY. Courtesy Paula Cooper Gallery, New York, NY.
12	舞台写真	『心は筋肉である』より「階段」、1968年4 月、リハーサル写真、ニューヨーク、アンダー ソン劇場	Gelatin silver print, 20.2 × 25.2 cm	Photo by Julie Abeles, Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
13	舞台写真	『心は筋肉である』より「アクト」、1968年4 月、リハーサル写真、ニューヨーク、アンダー ソン劇場	Gelatin silver print, 20.3 × 25.3 cm	Photo by Julie Abeles, Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
14	舞台写真	『心は筋肉である』より「馬たち」でのMー ウォーク、1968年4月、ニューヨーク、アン ダーソン劇場	Gelatin silver print, 20.4 × 25.2 cm	Peter Moore, Photograph of Yvonne Rainer's M-Walk in Horses from the Mind is a Muscle, 1968. © Barbara Moore/Licensed by VAGA, New York, NY. Courtesy Paula Cooper Gallery, New York, NY.
15	舞台写真	『心は筋肉である』より「フィルム」内での 「ヴァレーボール」、1968年4月、ニューヨー ク、アンダーソン劇場	Gelatin silver print, 20.4 × 25.3 cm	Peter Moore, Photograph of Yvonne Rainer's Volleyball projected during Film from the Mind is a Muscle, 1968. © Barbara Moore/Licensed by VAGA, New York, NY. Courtesy Paula Cooper Gallery, New York, NY.
16	レイナーによる振 付メモ	『心は筋肉である』より「フィルム」の舞踊譜、 1966ー1968年	Offset, 27.9 × 21.6 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
17	舞台写真	『心は筋肉である』より「レクチャー」。イヴォ ンヌ・レイナーによるタップシューズでの 『Trio A』、1968年4月、ニューヨーク、アン ダーソン劇場	Gelatin silver print, 20.4 × 25.2 cm	Peter Moore, Photograph of Yvonne Rainer's Lecture, Trio A performed in Tap Shoes by Yvonne Rainer, 1968. © Barbara Moore/Licensed by VAGA, New York, NY. Courtesy Paula Cooper Gallery, New York, NY.
18	雑誌切り抜き	雑誌「ダンスマガジン」の切り抜き、1968年	Offset, 21.5 × 27.9 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)

19	公演ポスター	5つのダンスパフォーマンスでの『心は筋肉である』(一晩のヴァージョン、7人でのグループ)のポスター、1968年4月、ニューヨーク、アンダーソン劇場	Offset, 56 × 43.1 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
20	レイナーによる振付メモ	『コネチカット・コンボジット』のプランとスケジュール、1969年7月19日、コネチカット・カレッジ、ニューロンドン、コネチカット	Photocopy, 27.9 × 21.6 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
21	レイナーによる振付メモ	『コネチカット・コンボジット』のプログラム、1969年7月19日、コネチカット・カレッジ、ニューロンドン、コネチカット	Photocopy, 27.9 × 21.6 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
22	レイナーによる振付メモ	『コンティニュアス・プロジェクトーアルタード・デイリー』の振付メモ	Offset, 27.9 × 21.6 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
23	公演写真	『コンティニュアス・プロジェクトーアルタード・デイリー』1969年、コネチカット・カレッジ、ニューロンドン、コネチカット	Gelatin silver print, 25.4 × 20.1 cm	Photo: Ellen Levene, Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
24	公演写真	学生による『Chair/Pillow』のパフォーマンス、1969年夏、コネチカット・カレッジ、ニューロンドン、コネチカット	Gelatin silver print, 25.4 × 20.2 cm	Photo: Ellen Levene, Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
25	レイナーによる振付メモ	コネチカット・カレッジ・アメリカン・ダンス・フェスティバルでのパフォーマーリスト	Offset, 27.9 × 21.6 cm	Getty Research Institute, Los Angeles (2006.M.24)
26	写真	グランドユニオン・ドリームズ再演記録(四谷アート・スタジオの通年講座の最終成果発表会・旧四谷第三小学校体育館にて、2010年10月20日)		写真: 梶原あずみ、資料提供: Post Studium / urizen
27	写真			
28	写真			
29	写真			
30	写真			
31	写真			
32	プログラム冊子	イヴォンヌ・レイナーをめぐって Everybody's Effort: Regarding Yvonne Rainer	21 × 15 cm	執筆: Yelena Gluzman 翻訳: You Nakai 所蔵: 越智雄磨
33	ポスター	グランド・ユニオン・ドリームズ再演ポスター	88 × 63 cm	所蔵: 越智雄磨
34	記録映像	グランド・ユニオン・ドリームズ再演記録映像	1時間19分	撮影: 中村宙志、資料提供: Post Studium / urizen

・Yvonne Rainer, *Feelings Are Facts A Life*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press, 2006.

・Yvonne Rainer, *Work 1961-73*. Halifax [N.S.]: Press of the Nova Scotia College of Art and Design; New York: New York University Press, c1974.

・Sid Sachs, ed. *Yvonne Rainer: radical juxtapositions 1961-2002*. Philadelphia, PA: University of the Arts, 2003. Catalog of an exhibition held at the Rosenwald-Wolf Gallery, Oct. 19-Nov 30, 2002.

・Sally Banes, *Terpsichore in Sneakers: post-modern dance*, Middletown, Conn.: Wesleyan University Press, 1987, c1979.

参考展示書籍 ・Yvonne Rainer, *Yvonne Rainer – Raum, Körper, Sprache*, Museum Ludwig, Köln: Walther König, 2012.
・Nanako Nakajima and Gabriele Brandstetter, ed. *The Aging Body in Dance: A Cross-Cultural Perspective*. London: Routledge, 2017

・外山紀久子『帰宅しない放蕩娘 アメリカ舞踊におけるモダニズム・ポストモダニズム』勁草書房、1999年

・木村覚『未来のダンスを開発する: フィジカル・アート・セオリー入門』メディア総合研究所、2009年

・市川雅『アメリカン・ダンス・ナウ: モダン・ダンス&ポスト・モダン・ダンス』パルコ出版、1975年
・「述3 舞台／芸術」近畿大学国際人が科学研究所紀要、2009年